

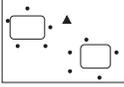
(部分)責任実習 指導計画

実習指導者

印

実習生氏名

印

20xx 年 ○ 月 ○ 日 (△)		場 所	ホール
主な活動 (題材)	伝承遊び (こま回し) 投げごま		実習 クラス (5)歳児 (ゆり)組 男児(5)名 女児(5)名 計(10)名
幼児の姿 (前日までの 幼児の姿を 多面的に捉 えて書く)	・冬休み中に体験したことを友達や保育者に話す。 ・お正月 (伝承) 遊びに興味をもち、自分なりに工夫をして遊ぶ姿が見られる。 ・牛乳パックで作ったこまで遊んだことはあるが、缶ごまや木ごまで遊んだことがない。	保育活動 のねらい	・昔ながらのお正月遊びに親しむ。 ・どうすればひもを使って缶 (木) ごまを回すことができるのか、工夫しながら遊びに取り組む。 ・友達と教え合う。
時間	環境構成	予想される幼児の活動	保育者の援助・配慮
10:00 (導入)	○ホールを使用 ○準備物 ・缶ごま 10個 ・木ごま 10個 ・ひも 10本 ・ベニヤ板 2枚	・自由遊びの片づけが終わったら、手洗いを済ませ教室に集まる。 ・保育者の話を聞く。 ・「こま」には缶 (ブリキ) や木などいろいろな素材があることを知る。	・これからこま遊びをすることを伝え、手をきれいに洗って、教室に集まるよう声をかける。 ・全員が揃ったところで、こま遊びの歴史について説明する。 ・こまにはいろいろな素材 (缶・木) があることを説明する。 ・保育者は缶ごまや木ごまを見せる。 ・こま回しの手本を見せ、こまが回ることに興味をもてるようにする。 ・こまをゆっくり見せ、部位の名称を伝える。 ・友達とぶつからないように声をかける。
10:10 (主活動) ※サブシー ト参照	○2つのグループ に分かれてこま 回しをする  ▲保育者 □ベニヤ板 ●子ども	・こまを受け取る。 ・缶ごまに挑戦させる (①缶ごまができるようになったら②木ごま)。 ○こまにひもを巻きつける仕方や投げ方 (外投げ) を知る ・友達と距離をとる。 ・ひもの巻き方を覚える。 ・こまの投げ方を練習する。 ・ぶつからないように安全に配慮しながら遊ぶ。 ・ベニヤ板の中にこまを投げて落とすようにする。 ・こまが回ったら「先生、できた!」と伝える姿が見られる。 ・上手にできるようになった子どもは、友達に教える姿が見られる。 ・①缶ごまができるようになったら、②木ごまにチャレンジする。 ・外投げができるようになったら、内投げにチャレンジする。	・こまを渡す。 ○こま回しの手順を説明する ・こまの部位の名称を説明する (コマ: 頭・芯棒・足・面・胴・腹、ひも)。 ・紐の巻き方 ・持ち方 ・投げるとき構え方 ・投げ方 (外投げ) ・片づけ方 ◎安全への配慮 ・こまをもって走らない。 ・こまを友達に投げない。 ・ひもを振り回さない。 ・使ったこまは自分で片づける。 ・上手にひもが巻けない場合には、再度手本を見せるなど個別に教える。 ・そろそろ、こまを片づけるよう促す。
10:25 (まとめ)	○こまの片づけ	○こまを片づけて、手洗いをする。	・子どもたちの片づけを手伝う。
10:30			・片づけたら、手洗いをするよう伝える。
自己振り返り・評価等	・途中で諦めることなく、こまが回せるようになるまで取り組む姿が見られる。 ・上手にこまが回せた達成感を味わう。 ・友達同士で教え合う姿が見られる。		